第 68 回神奈川建築コンクール　一般建築物部門　最優秀作品選評

「明治大学生田キャンパス　センターフォレスト」

審査委員　野村 和宣

明治大学生田キャンパス　センターフォレストは、教室棟の更新と図書館の機能移転を契機に、図書館、ラーニングコモンズ、教室を立体的に融合し、学部を超えた交流と共創を促すキャンパスの新たな中心を形成した。

歴史的建造物を保存によって継承することは、もちろん重要である。しかし、それがかなわない場合、その建築とどのように向き合い、何を受け継いで新しい建築を設計すべきか。本作品は、この問いに対する一つの説得力ある解答を提示している。

堀口捨己設計による校舎を建て替えるという重い命題に正面から向き合い、外部バルコニーや深い庇、内外を連続させる動線など、旧校舎の建築的特質を丁寧に読み取っている。かつての「移動」の空間を、学生が滞留し交流する「活動」の場へと発展的に継承した点が高く評価された。卒業生を設計メンバーに加え、旧校舎を体験した記憶と実感を設計に生かしたことも特筆される。

中央のセンターコモンズは、6 層の吹き抜けを介して三つの機能をつなぎ、学生の活動を建物全体に表出させている。さらに、約 1.8ha の外構を含むアカデミックモールを一体的に整備し、キャンパスの動線と景観を再構築した点も評価された。

約 14m スパンの PCaPC 床版、最大 6m の片持ち庇、自然採光・自然換気、用途別空調など、意匠、構造、設備、施工の高度な統合も高い評価を得た。ヒマラヤスギの記憶を伝える RC 列柱や伐採木の再利用など、場所の自然と歴史を新しい建築に織り込んだ点も印象深い。

総じて、歴史の継承、人々の交流、自然環境との調和、先進的な技術を高い次元でまとめ上げ、これからの大学建築のあり方を示した作品として高く評価された。